

間伐材・廃材利用

森林アート

人と森をつなぎ、記憶に刻まれる

森の中に

「観て」「体験して」「誰かに伝えたい」

世界に一つだけのものをつくったら、訪れた人は喜んでくれるはずだ。

ワクワクするものを全国の森につかっていきたい。

「森の巨人」は間伐材や廃材を多く使って製作でき、
環境に配慮した技術でつくられます。

森の巨人は数本の木があれば設置できます。

是非、皆さんがお住まいの地域に

オリジナルの巨人をお迎えください！

私たちの想い

「森の巨人」。言葉の響きだけでもワクワクを感じてしまうのですが、このプロジェクトの原点は単純に「びっくりする面白いもの」、思わず「ワオ！」って叫んでしまうようなスゴイものを森の中に作って、訪れる人達を喜ばせたいという想いで始まりました。

現代社会において人が森を訪れること。それこそが非日常体験です。しかしそこに「森の巨人」がいることで、訪れる価値のある、訪れるべき場所に生まれ変わります。このプロジェクトは人と森を繋ぎ、感動とともに記憶に刻まれます。

森の巨人とは

多くの方は「森の巨人」と聞いたら、「そんなものがあつたら、なんだか面白そう」とワクワクするのでは。しかし実際に森の中に10mを超える巨人を出現させた人は世界中探しても見当たりません。例えば「ツリーハウス」など、子どもの頃の夢のように「あつたらいいな」という夢を実現させる。「森の巨人」は、そんな一見するとちょっと「クレイジー」な、夢を夢のままで終わらせない大人が、本気になって作ったロマンの詰まった産物といえます。子どもが喜ぶことはもちろん、大人も大いに感動する迫力があります。

そして、巨人の胴体部分にはツリーハウス建築の技術を使用し、「搭乗」することが可能。まるで巨人に抱かれて操縦するような視点に立つことができます。

ワクワクをすべての人に

ツリーハウスのように搭乗できる「体験型」

共創の楽しみを広げる

このプロジェクトは、見た人の心を潤す木の力強さや大きさ、揺れる木々や森を抜ける風といった自然の美しさを再認識することで、荒れた放置林や温暖化など環境が抱える課題にも目を向ける、きっかけにもしていきたいと思っています。

さらにこのプロジェクトには「共創」というコンセプトもあり、ワークショップの参加者として私たちと一緒に作品を作っていただける方も募集中。また、子どもでも簡単に作れる木工体験やロープを使った本格的な木登り技術の講習を受けながら、共に作品作りができる方、ご協力いただける自治体や団体も大募集しております。

活動を継続していくことで森の在り方や必要性を考える視点が、各地に定着していくことを願っています。

01 廃材の利活用



プロジェクトの3つの特徴

「森の巨人」は、森林整備で出る廃材や間伐材を多く利用しています。廃材をリサイクルしアートを創り出すことで、環境課題の改善や地域資源の有効活用を図っています。さらに、これらの活動は地元コミュニティとの協力を通じて行われており、地域の環境意識の向上にも寄与しています。

これまでの活動は、メディアによる報道や作品のファン、SNSなどでの口コミを通じて、環境問題に対する取り組みとして広がりを見せています。また、地域住民や観光客からの支持を受けて、今後も多くの人々に影響を与え続けていきます。

02 幅広いデザインと安全性の確保



デザインは施主様やビルダー、プロジェクト参加者のアイデアを基に決定します。ツリーハウス建築の技術を活用した樹上型(7m~15m)から、地面に設置する据え置き型(3m~6m)まで、人型や動植物をモチーフにした多様なデザインが可能です。これにより、プロジェクトは個々のニーズや創造力を反映させたユニークな作品を生み出します。十分な耐荷重が確保されており、乗り込む際は柵付きの階段や橋を使用するため、ハーネスなどの装備を必要とせず安全に搭乗できます。これにより、利用者は安心してアートを楽しむことができ、同時に自然との一体感を感じることができ、

03 体験学習や観光コンテンツとして



その地域の森林資源を活用することで、新しい観光コンテンツの創造に貢献します。巨人アートの活動を通じて、環境教育や探求学習、地域資源の循環という観点からSDGsに関連した体験学習コンテンツとも親和性があります。これにより、地域の子どもたちや観光客は持続可能な開発目標を学びながら楽しむ機会を得られます。さらに、この取り組みは地域全体の環境意識を高め、持続可能な社会の実現に向けた意識の向上にもつながります。これらを組み合わせることで、地域の魅力と価値を一層高めることが可能であり、地域住民や観光客双方にとって有益な取り組みとなります。

もう一つの裏ミッションとして



プロジェクトの様子は、動画でもご覧いただけます

制作の流れ

立ち上げ~引き渡しまで

1. プロジェクト立ち上げ
2. 現地視察
3. 聞き取り
4. プロジェクトの背景整理、要望すり合わせ
5. デザイン、設計提案
6. プロジェクトの進行打ち合わせ
スケジュールング
7. 建築スタート
8. 完成、引き渡し

建築期間

建築を行う際、雪が降る地域では真冬は雪の影響により適していませんが、雪が降らない地域では冬場でも建築が可能です。例えば補助金の活用を前提にスケジュールを組む場合、年度末の3月または年度始めの4月に補助金申請の手続きを進めると同時に、現地調査や打ち合わせ、設計を進め、5月頃から着工するのがスムーズな流れです。

クラウドファンディングの場合、資金が手元に来るまでにクラウドファンディングの終了日から2か月ほどかかるため、イベントなどに間に合うようにするためにはスケジュールに余裕を持ってプロジェクトを開始するのが理想的です。これにより、必要な資金を確保した上で、着工がスムーズに進行します。なお、地域やプロジェクトの背景を考慮し、臨機応変にスケジュールを組ませていただきますので、お気軽にご相談ください。

クラウドファンディングの活用

プロジェクトの進め方の一つにクラウドファンディングがあります。実際に森の巨人3号では地域の企業や有志の方からご支援いただき資金を集めました。クラウドファンディングに役に立つノウハウや資料など提供させていただきますのでお気軽にお問い合わせください。

〈参考〉3号製作の際のクラウドファンディングサイトはこちら



進め方について

プロジェクトは、予算の組み方や資金の集め方にもよりますが、立ち上げから引き渡しまで最短で1年ほどかかります。

資金の集め方に関しては、補助金やクラウドファンディングの活用、ワークショップでつくっていく方法などが挙げられます。

